

世界展開力強化事業 長期留学 帰国報告書

ブラジル連邦共和国 サンパウロ大学 (ESALQ-USP)

農学部バイオセラピー学科植物共生学研究室 40413144 松崎永志

●長期留学を終えて

2月中旬、日本へ帰国した。就活を控えていたために、当初予定していた1年間よりも少し短い10ヶ月間でブラジルでの留学生活を終えることとなった。ブラジルとは違ってまだまだ厳しい寒さが続く久しぶりの日本。綺麗で清潔な街並み。ブラジルとは異なり、全員が同じような顔をしている私たち日本人が、当然ではあるが、当たり前ではあるが、日本語を話しながら街を歩いている。約30時間のフライトを終えて実家への帰路の途中、ほっと安心するような居心地の良さと同時に、ブラジルへのサウダージ（日本語でいうと哀愁、懐かしさのようなもの）を感じていた。その瞬間に、改めて私の留学生活は終わってしまったのだと実感した。

私がブラジルに留学しようと思ったのは、「世界有数の農業大国であるブラジルの農業」と、「アマゾン地域をはじめとするブラジルの多種多様な薬用植物」について学ぶと同時にポルトガル語を習得し、将来はこれらの分野で世界を舞台に活躍できる人材になりたいと考えていたからであった。しかし実際に留学を終えた今振り返ってみると、当初考えていたこれらの目的以外にも、様々なことに関して経験や知識を得られたと感じている。今回の帰国報告書では、私がブラジルで経験した様々な出来事や日々感じたこと等について書こうと思う。ブラジルをはじめ、海外への留学を考えている後輩達の情報源として少しでも役立てば幸いである。

●私が留学して実際に感じた「ブラジル」という国

ブラジルは、多民族国家である。故に街を歩いていると、ヨーロッパ系、アラブ系、アフリカ系、そしてアジア系等様々な特徴の顔をした人達とすれ違う。もちろん日系人もいる。そのため、留学当初に街中を歩いていてブラジル日系人と間違われ、いきなりポルトガル語で話しかけられるといった事もあった。ブラジルという国には、人種差別が無い。

ブラジル人は、とにかく陽気で気さくだ。そして世話好き。駅の切符売り場やスーパーのレジで並んでいると、何もないのにどうでもいいような事を話しかけてくる。道で迷っていると、すぐにどうかしたのか？と尋ねてくる。友達の友達は友達。人と話すのが生き甲斐。いつも楽しそうだ。日本とは違い、決して裕福とはいえない家でも、周りに何もないような田舎でも、楽しそうな笑い声と笑顔で溢れている。

ブラジルは、2050年の世界国別GDPランキングにおいて、日本をも抜いてトップ5に入ると言われている非常にポテンシャルのある国だ。最近だと、2014年にワールドカップ、2016年にオリンピックがあり、世界から注目された。しかしながら、政界の汚職問題や国土のインフラ整備、治安の悪さ等、未だに多くの問題を抱えている。実際に私の知り合いでも、拳銃を突き付けられた経験のある人や携帯を盗まれた人は多くいる。また、地方の田舎に行くと舗装されていない道が続いており、たくさんの収穫した穀物を乗せた大型トラックが走っている。しかし、道がデコボコであるため、目的地である港に着くまでに何割かは道路に落ちてしまうそう。こうした多くの課題を乗り越えなければ、先進国の仲間

入りは果たせないと思う。しかし、これから近い将来、世界をリードしていく国になるといわれているこのブラジルの今、2016年～2017年をこの目で見て、実際に足を踏み入れ現地人と同じ生活をし、体感できた経験の価値は、今後自分が生きていく上で必ず糧になると思う。

●ブラジルで経験した出来事

一年に私が経験した様々な出来事を時系列順に紹介したい。

【日本人会】

ESALQ 農業経済学の先生でいらっしゃるシロタ先生にお誘いいただき、日本人会に参加していた。日本人会とは、日系人をはじめ日本に興味がある方々が週に一度集まり、皆で日本食を食べる会である。年配の方がほとんどであるため、移住などの歴史や食文化についてお話を伺える良い機会となっていた。

【しずお君のご実家訪問】

5月中旬の週末を利用し、ESALQの学生で日系人であるしずお君のご実家に伺った。場所はピラシカバ市から車で2時間程の同州ピラル・ド・スールという町である。人口は約2万5千人ととても少ないが、そのうちの千人は日系人であるため、日本の文化が根強く残っている町だった。

ここでは、ご実家で栽培されているトルコギキョウやキンギョソウなどの花卉、トマトなどの野菜を見学した。ブラジルと聞いてまず想像するのは広大な大地に広がる大規模農場であるが、彼の家では比較的小規模で農業を行なっている。研究と生産に分けて栽培を行ない、また特殊な種類を扱うことで差別化を図っているようだ。その後、町内の日本語学校で開催された牛の丸焼き祭りに参加させていただいた。当日は600人程が集まった。前日から準備をした牛一頭を丸焼きにし、切り分け、フェイジョンや野菜、ご飯などと共に美味しくいただいた(図4)。また、生徒達が演奏する和太鼓や、迫力あるソーラン節の演技を楽しんだ。このイベントで最も印象深かったことが、日本語を話せる日系人の多さである。ブラジルでは、一般的に日系人は日本語が話せないことが多い。しかし、この町では昔から保護者の皆さまや先生方が一致団結して生徒達に日本語教育を行なってきたことで、年配から子どもまで多くの日系人が日本語を話せるようだ。日本とブラジルの深い繋がりを実感することができ、大変勉強になった。

【研究室での植生調査】

前回の報告書で紹介した薬用植物の研究室で活動を始めてから1ヶ月程経った休日、教授と学生3人と共に植生調査へ向かった。セハードと呼ばれるブラジル特有の乾燥地帯では、日本には自生していない多くの植物種を観察することができた。

【有名クラブチーム「コリンチャンス」のサッカー観戦】

お世話になっている日系人の岸さんにお誘いいただき、サッカーの本場ブラジルで初めて試合を観戦した。コリンチャンスはサンパウロの歴史ある強豪チームで、熱狂的なサポーターの応援が有名だ。この日も試合前から発煙筒が燃え上がる等、いかにもブラジルらしい雰囲気であった。

【BIO BRAZIL FAIR 見学】

サンパウロ市内の会場で開催されたこのイベントは、有機農産物や健康食品を扱う企業が一堂に集結するとても大きなイベント。各ブースでは、ハチミツプロポリスや有機野菜を利用したジュース、成分にこだわった菓子等の試食・試飲を楽しみながら、商品の解説を聞くことができた。

【農大会館でのミーティング参加およびOBの方々への挨拶】

月に一度行われるミーティングがあると伺い、初めて農大会館を訪問した。ブラジルに移住して多方面で活躍されている大先輩方に挨拶した後、昔の農大やブラジルに関する様々なお話を聞かせていただいた。

【中南米の農業分野に精通した野澤様宅訪問】

野澤様は大学卒業後に中南米へ渡り農業分野でご活躍され、現在も中南米や日本で講演を行う等活動を継続されている方だ。ブラジルの農業概要をはじめ、薬草、プロポリス、日系社会等についてお話を伺うことができ非常に勉強になった。

【ミニトマト農家前田様宅での研修】

農大校友会にご紹介いただき、ミニトマトを栽培している前田様のお宅にて約1週間研修させていただいた。広大な敷地に建てられたハウスで栽培しているミニトマトや野菜の種苗をじっくりと時間をかけて見学。栽培、土壌、品種、流通、市場等、農業に関する様々なお話を、農家と経営者の視点でご説明いただいた。また研修期間中には、サカタのタネのブラジル支社やHORTITECと呼ばれる南米最大規模の農業メーカーが集うイベントにも連れて行っていただいた。

【サンパウロ博物研究会見学】

サンパウロ博物研究会はサンパウロを中心に薬用植物を利用した活動を行なっている団体で、日本人や日系人の方々が運営されている。月に一度の集まりにご招待いただき、活動内容や薬草園を見学させていただいた。

【ベレン・トメアスー訪問】

7月8日～15日にかけてブラジル北部のアマゾン地域にあるベレンとトメアスーを訪問した。主な目的は、薬草とアグロフォレストリーについての勉強である。ベレンでは多種多様な薬草が揃うヴェロペーゾ市場、トメアスーでは農協や文協、10件程の農場を見学させていただき充実した日々を過ごすことができた。現地では佐藤様、大西様、鈴木様、坂口様はじめ、多くの農大関係者にお世話になった。

【ESALQ サマーコース参加】

7月25日～8月5日の2週間、ESALQで留学生向けに開講されたサマーコースに参加した。欧米やアジアを中心に約10ヶ国計24人の学生が出席し、講義はすべて英語で行われた。ブラジルの農業について様々な分野の先生方が説明してくださった他、有名な農薬会社やエタノール生産現場、植物園等も

実際に見学でき、ブラジルの大規模な農業関連施設に圧倒された2週間であった。また学生同士の仲も非常に良く、最終日には全員でバーへ行き、オリンピックの開会式を見ながら各国の文化やスポーツ等の話題で盛り上がった。

【農大ブラジル校友会慰霊祭】

年に一度サンパウロで行われる農大ブラジル校友会慰霊祭。当日は農大関係者50人以上が集まり、大勢の人で賑わっていた。農大の大先輩方がブラジルで築き上げてきた歴史がどれだけ偉大なものであったか改めて気づかされた。

【Poko-Loco シュハスコ】

現在暮らしているヘプブリカ Poko-Loco のシュハスコが開催された。Poko-Loco では代々日系人が暮らしていたので当日は多くの日系人のOBの方々がいらっしやり、昔のESALQの話題や現在働かれている農業関連メーカーでの仕事等についてお話を伺うことができた。

【サンパウロ博物研究会催し物でのお手伝い】

以前から度々お世話になっているサンパウロ博物研究会にて、2日間お手伝いを行なった。本会はこのイベントに毎年ブースを出展している。私は薬用植物の苗や鉢植えを売るブースを担当した。各植物の名前や薬効、料理としての使用方法等をポルトガル語で説明するのは、わからない単語も多くとても苦労したが、私が日本人とわかると一生懸命に耳を傾けて話を聞こうとしてくれる心優しいブラジル人や日系人の皆さんに助けられ、無事に仕事をやり遂げることができた。

【農大世界展開力強化事業短期留学生の来伯】

農大から2週間程の日程で世界展開力強化事業の短期留学生が来伯した。短期留学生達は、最初の数日間はサンパウロ市内にて農大OBの方々と懇親を深めたり、ESALQでの講義や見学の日々を通してブラジルの農業について深く学んだりしたようだ。私自身も徐々に日本人の学生と様々な話題で盛り上がり、充実した日々を過ごすことができた。

【日本と南米4か国の日系農家さん向け講習会イベント参加】

農大OBの大森さんのご紹介で、日本と南米4か国の日系農家さん向け講習会イベントへ参加させていただいた。2泊3日の日程で、ブラジルの様々な分野の専門家の講義を聞いたり、実際に栽培地を訪問したりするイベントであり、今回のメインテーマは果樹であった。ブラジルにおける果樹栽培に関する知識がついたのはもちろん、多くの日系農家さんのお話も聞くことができ非常に有意義な時間を過ごすことができた。

【オランブラでの花祭り】

ブラジル人の友人達と農大留学生の伊藤君と共に、オランブラで開催された花祭りを見学した。オランブラは花卉の栽培で栄えたサンパウロ近郊の街で、年に1度花祭りが行われ、花をテーマにした展示を公園内の至る所で見ることができ、多くの人々で賑わっていました。花は生活必需品ではないため、

ある程度豊かな国でないと普及していないと考えていたが、今回の花祭りでの人気を目の当たりにして、ブラジル人の生活にも花をはじめとした自然の豊かさや心地よさが求められているという事を知る良い機会となった。

【研究室活動 1】

研究室の先生が小学校にて行っているプロジェクト活動に同行しました。小学校の校庭に花壇をつくり、そこで生徒が薬用植物を栽培することで教育の一環を担うというものです。当日は保護者の方や先生方、薬用植物に興味のある人々が集まり、私にとっても非常に勉強となりました。

【日系種苗メーカー駐在員さん取材】

以前 HORTITEC と呼ばれる農業関連企業が集うイベントでお会いした日系種苗メーカー駐在員さんへ取材をさせていただきました。内容は「海外×農業で働く」。文系の外国語学部出身として農業の世界に入り、海外を舞台に活躍されている現在のお仕事についてお話を伺いました。取材記事は、日本で行っていたインターンシップ先の HP にて掲載予定です。農業系企業への就職を目指す学生のために行いましたが、取材をした私自身にとっても非常に勉強になり、今後の自分の将来を考える上で大変参考になりました。

【研究室活動 2】

1泊2日で植生調査の手伝いをしました。友人の研究テーマを手伝うため全員で10人程が集まり、バスで4時間以上離れた街へ行きました。現地ではどのような薬用植物が植わっているか、種の同定を行った後に標本を作成します。どの植物も日本とは姿かたちが異なるものばかりで、非常に面白かったです。実際に現地の植物をみたり触ったりして、さらに多くの種類の植物を覚えていきたいです。

【ブラジル日本人留学生の会】

サンパウロ市内にて、ブラジルで留学している50人以上の日本人留学生と社会人の方々が集まるイベントが開催されました。このイベントはサンパウロ大学に留学生している日本人留学生が昨年からの企画運営しているものです。ポルトガル語学科を有する外国語大学の学生をはじめ、様々なバックグラウンドを持った学生との会話は非常に刺激的なものでした。また、実際にブラジルで働く社会人の方々のお話も将来を考える上で大変参考になりました。このように多くの人々と話す機会を今後も大切に、積極的に参加していきたいと思えます。

【サンパウロモーターショー】

サンパウロ市で年に一度開催されるモーターショーを見学した。世界各国の名だたる有名自動車メーカーがブースを設置しており、自由にドアを開けて中に乗ったりもできる。ブラジル人にも日本車は非常に人気で、信用できるメーカーとして多くの人々が愛用しているようであった。改めて日本製品のクオリティと信頼度の高さを実感した。

【サントス訪問】

休日を利用し、サンパウロ市から南に1時間程行ったサントスを訪れた。サントス港は、日本人がはじめてブラジルに足を踏み入れた、上陸の地であり、石碑も立っている。市内にあるコーヒー博物館も訪れた。ブラジルは言わずと知れたコーヒー豆の一大産地であり、これらに纏わる様々な展示がされていた。

【ブラジリア訪問】

夜行バスで20時間以上かけ、首都であるブラジリアを訪問した。ブラジリアは計画的に作られた都市で、道路や建物も特徴的な構造のものが多かった。

【農大会館忘年会】

毎年開催される忘年会に参加させていただいた。当日はベレン等遠方に住んでいる方々も含め総勢50人程が集まり、日本食を囲んでの忘年会となった。皆様に顔を覚えていただき、様々な話で盛り上がった。

【岩手県人会主催薬草製品イベント】

ブラジルの薬草を使った健康食品や化粧品を製造販売している会社の社長さんに出会い、イベントのお手伝いをさせていただいた。当日は日系人をはじめとした多くのブラジル人年配者が集まった。

【リオデジャネイロ・イグアス・マナウス訪問】

留学生活も残り僅かということで、訪問していなかったイグアス、マナウス、また二度目の訪問となるリオデジャネイロを訪れた。民族構成、気候帯、生態系も異なる3都市で、違った顔を持つブラジルを様々な角度から知ることができた。

【薬草製品販売企業でのインターン】

前回お世話になった企業で二度目のお手伝いをさせていただいた。時折ポルトガル語を交えて製品の宣伝販売を行なうのは難しい面もあったが、今後語学と商品知識を活かして仕事を行なうための良い練習機会となった。

【サンタカタリーナ州の農大先輩方農場訪問】

1月後半から2月前半にサンタカタリーナ州にお住いの先輩方の農場を訪れた。アセロラ、大豆、ナシ、リンゴ、など様々な作物の生産現場を見学でき、非常に有意義な時間となった。

【農大会館新年会】

帰国前最後のイベントは農大校友会の新年会であった。一年間を通してお世話になった多くの方々に御礼をし、将来再度ブラジルに仕事で帰ってくることを約束した。

●最後に

今回の長期留学では、国際協力センター、大学の諸先生方、両親、友人、農大校友会の先輩方、現地の友人、学生、先生方はじめ多くの方々のご協力があり、無事に留学生活を終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。